

## 時計がない

クラレチアン宣教会司祭 梅崎隆一

高円寺教会に呼ばれるようになり、二年が経ちました。通うようになって気づいたのは、聖堂内に時計がないことです。空調、照明、マイクなどは快適な典礼環境を作るために必要ですがミサに時計は必要ありません。しかし私がミサをこれまで捧げたほとんどの教会の聖堂には時計がありました。よくよく考えてみると聖堂内に時計ある教会の設置場所のほとんどは聖堂中央入り口の上です。つまりミサに参列する信徒からは見えませんが、ミサを捧げる司祭の目の高さにあるということです。ですから誰が何のために設置したのかをよくあらわしています。ヨーロッパの大聖堂であれば祭壇から正面玄関までは遠いので、時計を設置しても期待する効果は得られないと思われま

す。ある教会で「この教会にも時計がないなあ」と思いながらミサを捧げ、福音朗読に向かうと、朗読台の上にデジタル時計が置いてありました。そこに教会の信徒の切実な願いを感じました。

時計のある聖堂ではミサの間、時計と良く目が合います。ミサが始まって15分で福音書の朗読が始まり、20分で説教が終わり、30分で主の祈りを唱え、お知らせが長くなければ45分でミサが終わることを教えてくれます。

ある司祭は主司式をせず一年間司祭の説教を聞き、痛感したのは「長い」ということでした。彼の分析では司祭と信徒では時間の流れ方が違うから起こる現象ではないのかということです。

このようなわけで、私の中での時計のない教会とは「歴代の司祭の説教を信徒が長く感じなかった」ところにあるのではないかと思っています。

私の出身教会の聖堂にも以前は時計がなかったのですが、ある時から設置されており、そこに時代の変化を感じました。

しるしとは目に見えない思いを目に見える形で示すことだと教えられましたが、実感を持って知ることができたのは聖堂内の時計からでした。

人の心の思いが目に見えるしるしになるよう工夫したように、日本の社会において目に見えない神様の恵みをどのように目に見えるしるしとして示していくかを、同じ熱心さで示すことができればと思います。